

活動地域:北海道富良野地域

活動時期:2005年～現在



発表団体名:

同志社女子大学 プロジェクト演習Ⅰ・天野ゼミ

石川愛実・白男川真衣・濱西杏実・福田明莉・天野太郎

連携メンバー:北海道中富良野町・中富良野町商工会・

中富良野町町議会・渋谷正文(富良野市会議員)・浦田吉

(北海道観光大使)・(一社)暮しステーション(富良野市)

1. 北海道富良野地域における 地域連携型学習を通じたまちづくりの視点

活動時期:2005年～現在

本学で実施している地域連携型授業・プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ(富良野)を取り上げて、プログラムの現状とその特徴を報告する。また、これは地域に密着し、地域の問題解決型の実践的授業であり、毎年8月～9月の7泊8日、現地滞在を行い調査・学習・報告を行ってきた。

これらは当初、「観光」を中心としたプログラム(2006年-2009年)であったが、本学科内「京都学・観光学」コースに対応し、観光地域としての富良野・中富良野町・ファーム富田を主体として実施されるようになった。また、富良野地域の観光入込客数の変化やファーム富田の受け入れ態勢の変化に伴い、テーマを当初の「観光」から「まちづくり」・「地域活性化」にシフトしてきた。富良野地域では自然観光資源から、ラベンダー、フィルムツーリズム(「北の国から」・「風のガーデン」ロケ地)、食観光(オムカレー)、環境保護観光へと、つねに新しい資源を持続的に生み出されてきた。地域住民自身が活性化し輝くことで、地域の魅力が増加する。そこで、学生と地域住民が交流しながら、女子大生の視点からのまちづくりを学習・提唱・発信した。



2. 女子大生独自の視点からの政策提言 ～「恋活」を通じた中富良野町の活性化～

1 恋活の現状把握

行政・地域住民・観光客にインタビュー
富良野市議会議員の方との意見交換
町長をはじめ行政からの問題意識
隣接する市町村や他府県での成功事例
の調査



2 課題

住民からの認知度が低い
参加者・成立者が少ない
カップル成立後のアフターサービ
スがない
恋活告知パンフレットの問題



3 提案

・中富良野らしさ
・ときめき
・参加者への配慮
行政側の立場が優先されていた活
動ではなく参加者に寄り添った活
動にしていくことが結果的に中富
良野町の移住人口増加に繋がるの
ではないか

3. 今後の課題・目標

このように教育プログラムを、地域と連携した持続的なプログラムとして継続する上で、地域と大学を結ぶ組織網を密にし、学生から地域へ新たな可能性の提供ができる。

少子高齢化・人口減少が進む観光地・富良野からの学びを京都へのフィードバックとして実践していきたい。